

治 革



| 期 | 年 | 月 | 事 柄 |
|------|-----------------|-----|--|
| 第1期 | 1977年 (S52年) | 3月 | 厚木市テニス協会は、昭和52年3月、厚木市及び周辺地区の加盟7団体で『厚木市庭球協会』として発足し、同月神奈川県庭球協会へ加盟。 ・本協会の初代は、会長に高井新治、副会長に柴崎玄八、小谷正和、高橋昌宏、理事長に島勝一を配し、顧問に小澤金男神奈川県議会議員、相談役には協会設立の立役者である加藤寿夫プロを迎え組織を整えた。 ・主な行事としては、協会発足時より、競技大会として、厚木庭球トーナメント大会（現厚木市民トーナメント大会）、厚木庭球選手権大会（現厚木市テニス選手権大会）、及び春秋2回の事業所対抗が行われた。 ・厚木市内のテニスコートは、当協会発足時には未だ整備が遅れており、公営コートは県央テニスコート（南毛利テニスコート）8面のみで制約が多く、当時は11面を有していた厚木国際テニスクラブの協力を得て大会やテニス教室に利用させて戴いた。 その後若宮コート、荻野コートのオープン、更に神奈川県国体を契機に県央テニスコートの拡充などにより、徐々に充実していった。 |
| | | 7月 | 同年7月に厚木市体育協会に加盟。 |
| 第2期 | 1978年 (S53年) | 4月 | 小谷正和副会長が退かれた外は、他の役員は継続した。 ・新たな競技大会として、厚木市民大会が開催されるようになり、3大会方式が確立。 ・指導・普及に関しては、厚木市教育委員会から委託の形で初心者テニス教室を継続して開催することになって、現在に至っている。 |
| 第4期 | 1980年 (S55年) | 4月 | 初代会長の高井新治に、新たに副会長に鈴木擘之、島勝一を配し、第2代理事長に光増栄が就任。 |
| 第5期 | 1981年 (S56年) | 4月 | 第4期体制を継続。 ・全国都市対抗神奈川県予選大会に初参加。 ・クラブ対抗戦も神奈川県予選大会として始まった。 |
| | | 8月 | 厚木市体育協会からの要請を受け、名称を『厚木市テニス協会』に変更。 |
| 第6期 | 1982年 (S57年) | 4月 | 会長高井新治、副会長鈴木擘之、島勝一に落合一成厚木市市議会議員を副会長に加え、理事長に光増栄を継続して選出。 |
| | | 9月 | ・指導者研修会として山中湖合宿をスタートした。 |
| 第8期 | 1984年 (S59年) | 4月 | 第8期は、第6、7期体制を継続。 ・家庭婦人の活躍の場として、厚木市レディーステニス大会を始めた。 ・指導・普及に関しては、更に強化練習会（現指導者養成教室）、神奈川県テニス協会の指導員受験のための指導員研修会をスタートさせた。 |
| 第9期 | 1985年 (S60年) | 4月 | 第7期の役員体制に加え、顧問に足立原茂徳厚木市長を迎えた。 ・企業・地域・民営クラブの交流を進め懇親を深めるための厚木団体チャンピオントーナメント大会を始めた。 |
| 第10期 | 1986年 (S61年) | 4月 | 厚木市テニス協会設立10周年は、高井新治会長、副会長の鈴木擘之、島勝一、落合一成に新たに近藤修を副会長に選出し、第3代理事長に内田司朗が就任。 ・厚木市テニス協会の組織は当初、理事会の中で総務担当が大会運営を中心に会計、対外関係までほぼ全てを処理していたが、事務量増大への対処と権限集中を避けるため、本年からトーナメント部・指導部・事務局の組織体制をスタートさせた。 ・各加盟団体が各行事、大会等を協力して分担する運用方式をスタートさせた。 |
| | | 11月 | ・厚木市テニス協会設立10周年記念イベント・式典を開催。 ・元デビスカップ日本代表監督の坂井利朗氏講師を迎え、講習会を催した。 |

| | | | |
|------|-----------------|-----|--|
| 第11期 | 1987年 (S62年) | 4月 | 第10期体制を継続した。 ・普及・指導に関して、更に早朝テニス教室、ジュニア指導会、婦人指導会を開始し、指導と普及に努めた。 |
| 第12期 | 1988年 (S63年) | 4月 | 高井新治会長、副会長鈴木孝之、島勝一、落合一成、近藤修に光増栄を新たに副会長に加え、理事長内田司朗の体制に、神奈川県テニス協会の田村義男副理事長（厚木市長谷在住）を相談役に迎え、組織体制の強化を図った。 |
| | | 11月 | ・加盟団体の代表者懇談会を本年から開始し、加盟団体の皆様と協会との意見交換が活発に行われるようになった。 ・トーナメント部の中に審判委員会を設置し、近隣の審判員にも呼びかけて競技運営の円滑化と審判技術の向上を図ると共にテニスルールの浸透にも役立てるようにした。 |
| 第13期 | 1989年 (H元年) | 4月 | 第12期の役員体制を継続。 |
| | | 4月 | ・発足後、加盟団体は年を追うごとに増加し、第14期にピークを迎え、加盟団体数は44団体、加盟員数は2,500名を超えた。 平成元年には、周辺各市のテニス協会の設立・充実に伴い、発足時からの加盟団体が所在各市の協会へ移管し、厚木市内に本拠を置く団体のみの加盟となった。 |
| 第14期 | 1990年 (H2年) | 4月 | 第4代理事長に野口勝生が就任。 高井新治会長、副会長鈴木孝之、島勝一、落合一成、理事長野口勝生の体制となった。 |
| | | 9月 | 協会発足当初より会長職を務めて来た高井新治氏は逝去されたため、副会長の島勝一が会長代行を務めた。 |
| 第15期 | 1991年 (H3年) | 4月 | 第2代会長に島勝一が就任し、副会長鈴木孝之、落合一成、理事長野口勝生の体制となった。 |
| 第18期 | 1994年 (H6年) | 4月 | 会長島勝一、副会長落合一成に新たに野口勝生、内田司朗を副会長に選出。 第5代理事長に立花秀夫が就任。 |
| 第19期 | 1995年 (H7年) | 4月 | 第7期の体制を継続。 ・底辺拡大の時期もひと段落し、厚木レディース大会がその役目を終えた。 |
| 第20期 | 1996年 (H8年) | 4月 | 厚木市テニス協会設立20周年は、第3代会長に内田司朗が就任、副会長落合一成、野口勝生に新たに成田雅則、松本憲明を副会長に選出し、理事長立花秀夫の体制となった。 ・この後の10年を「強化」の期間と位置付け、新体制のスタートを切った。 |
| | | 11月 | 厚木市テニス協会設立20周年記念イベント・式典を開催。 ・元デビスカップ日本代表監督の福井烈氏と田村信也氏を講師に迎え、講習会を催した。 |
| 第22期 | 1998年 (H10年) | 4月 | 会長内田司朗、副会長落合一成、成田雅則、松本憲明に新たに立花秀夫を副会長に選出。 第6代理事長に野口勝生が再任。 |
| | | 10月 | ・第53回国民体育大会（かながわ・ゆめ国体）が、南毛利コート16面でソフトテニス実施。 硬式テニスは、川崎、平塚会場にて実施。松本副会長、野口理事長2名を準備期間から大会当日の担当として派遣。 |
| 第24期 | 2000年 (H12年) | 4月 | 第4代会長に野口勝生が就任、副会長松本憲明、立花秀夫。第7代理事長に渡部克典が就任。 ・競技力の向上に努めた。 |
| | 2001年 | 2月 | ・県央地区テニス連合会により主催してきた ベテラン・ジュニア大会の終了に伴い、近隣協会も対称に含め加藤幸夫プロによる指導者養成教室（神奈川県公認指導員ポイント対象指導会）を開始。 |

| | | | |
|------|-----------------|-----|--|
| 第25期 | 2001年 (H13年) | 4月 | 第24期の体制を継続。 ・通称AOPランキング方式（厚木ランキングポイント）を導入。 ・春の厚木市民トーナメント大会に男子シングルスAクラスの設置など、それまでの横の広がりだけでなく上位を目指す強化路線へと大会の運営方法もシフトさせていった。 |
| 第28期 | 2004年 (H16年) | 4月 | 第5代会長に立花秀夫が就任、副会長松本憲明に新たに渡部克典を副会長に選出。 第8代理事長に小林英一が就任。顧問には小澤金雄氏の後継に小林常良神奈川県議会議員を迎えた。 |
| 第29期 | 2005年 (H17年) | 4月 | 第28期の体制を継続。 ・選手強化路線の成果があつてか、全国都市対抗神奈川予選大会では、平成17年、18年と2年連続ベスト4に入る結果となった。 ・個人戦の神奈川県選手権においても、優勝者を次々と排出。 |
| 第30期 | 2006年 (H18年) | 4月 | 厚木市テニス協会設立30周年は、第28期から継続の役員体制で迎えた。 ・年間を通して、設立30周年記念行事を行った。 ・公民館巡回キッズテニス教室（6会場）、メディカルセミナー（2回）を開催。 |
| | | 11月 | ・厚木市テニス協会設立30周年記念イベント・式典を開催。 ・記念イベントは、荏原湘南スポーツセンターのコーチ陣を招き、レッスンを行った。またリコーとソニーの協力を得て、日本リーグの代表選手による模範試合など、盛り沢山の内容で開催した。 |
| 第32期 | 2008年 (H20年) | 4月 | 第6代会長に松本憲明が就任し、副会長渡部克典に新たに小林英一（理事長兼任）を副会長に選出。 |
| 第34期 | 2010年 (H22年) | 4月 | 会長松本憲明、副会長渡部克典、小林英一に新たに永廣三代子を副会長に選出。 第9代理事長に山下昭男が就任。 ・永年築いて来た、参画型の協会運営を特徴とする当協会の実情に合わせて、協会会則の改定を行い、理事には全加盟団体から参加する体制が整った。 ・元相談役の田村義男氏が「瑞宝小受章」を叙勲。 |
| 第35期 | 2011年 (H23年) | 4月 | 第34期の役員体制を継続。 ・松本憲明会長が永年の神奈川県テニス協会に貢献したことを評価され、「日本テニス協会功労賞」を受章した。 |
| 第36期 | 2012年 (H24年) | 4月 | 第7代会長に渡部克典が就任し、副会長小林英一、永廣三代子、理事長山下昭男を選出。 ・トーナメント部の審判委員会を審判部に昇格・独立させ、競技運営のトーナメント部理事と審判・ルールに関する審判部理事の分担を明確化し、大会の運営の円滑化及びテニスルールの浸透・マナーの向上に取り組んだ。 |
| 第37期 | 2013年 (H25年) | 4月 | 第36期の役員体制を継続。 |
| | | 7月 | HLTC所属の青山修子プロがウインブルドン選手権2013、女子ダブルスでベスト4の快挙！ |
| 第38期 | 2014年 (H26年) | 4月 | 会長渡部克典、副会長小林英一、永廣三代子、新たに山下昭男を副会長に選出。 第10代理事長に迫田薫が就任。 |
| 第39期 | 2015年 (H27年) | 4月 | 第38期の役員体制を継続。 ・都市対抗の厚木市代表選手の選手選考について、従来の選手選考方式を改め、新たに選手選考規定を設け、選手選考委員会にて候補選手の洗い出しを行い、新たに選抜大会を開催することにした。 ・厚木市民トーナメント大会、厚木市テニス選手権及び選抜大会を含めた3大会の結果から都市対抗の厚木市代表選手を選手選考委員会で選出することにした。 |

| | | | |
|------|-----------------|----|--|
| 第40期 | 2016年 (H28年) | 4月 | <p>厚木市テニス協会設立40周年は、第8代会長に山下昭男が就任し、副会長小林英一に新たに橋本満則を副会長に選出。理事長に迫田薫を選出。</p> <p>・第40期の当協会の状況は、</p> <p>①今季の会員数は、 平成元年のピーク時から登録数はかなり減少しています。 加盟団体数：29団体（企業チーム：8団体、民営・同好会チーム：21団体） 会員登録数：1,642名（男性：1,084名、女性：588名）</p> <p>②競技に使用出来るテニスコートは、 南毛利テニスコート12面、若宮コート4面、荻野コート4面、厚木庭球場3面、猿ヶ島4面の計27面となっている。</p> <p>③競技大会については、 厚木市クラブ対抗戦 春季実業団対抗テニス大会 厚木市民トーナメント大会 厚木市テニス選手権大会 厚木市ジュニアテニス選手権大会 秋季実業団対抗テニス大会 厚木市テニス選抜大会 厚木市団体チャンピオン大会</p> <p>④普及・指導に関しては、 指導者養成教室を年4～5回開催し、3回については、プロの講師を招き指導者の養成、レベルアップに努めている。</p> <p>⑤対外活動としては、 厚木市教育委員会、厚木市体育協会などの事業に協力し、各種教室に指導講師派遣している。 キッズテニス教室（年2～3回）、初中級テニス教室（年1～2回）、公民館主催のキッズテニス教室（年2～5回）。 車椅子テニス大会、市民マラソン大会などの各種行事にも積極的に大会役員や指導者を派遣し、地域のスポーツ振興の一助を担っている。</p> <p>⑥神奈川県テニス協会との関わりは、 神奈川県テニス協会の各種役員に毎年派遣し、地区協会の意見具申や運営に貢献している。 理事：小林英一、常任幹事：松本憲明、評議員・審判委員：迫田薫、行事副委員長：山下昭男 普及指導委員：橋本満則、実業団委員：柴田清人</p> <p>・厚木市テニス協会設立40周年について</p> <p>①Play & Stay 親子キッズテニス教室 開催日：平成28年6月12日（日） 会場：荻野コート4面</p> <p>②テニス講習会他 開催日：平成28年11月12日（土） 会場：荻野コート4面</p> <p>③記念式典 開催日：平成28年11月12日（土） 会場：厚木レンブラントホテル</p> |
|------|-----------------|----|--|

